

アリジゴクやヘビトンボの仲間（アミメカゲロウ目）

センブリ

Sialis sibilica

センブリ科

名前の由来

不明。漢字名：不明



センブリ（幼虫）

形態的特徴

幼虫の特徴：2 cm程。7対の有節付属器が腹部側面にある。

末端に尾突起がある。

類似種と見分け方：ヘビトンボ。

ヘビトンボは大型で、8対の無節付属器が腹部側面にある。

生息環境・分布

水温の低い泥底質内に生息する。

分布：国外分布は、シベリア・樺太。国内分布は、北海道。

北海道内では、普通に分布。

十勝地方では、普通に分布。

食性・他の生物との関わり

捕食性で、他の微小水棲動物を捕食する。

魚類の餌となる。

繁殖生態・寿命

水辺の石や水草に卵塊を産み付ける。

興味深い話

■生態・分類の研究が進んでいない。

■センブリ科は世界の温帯にのみ分布するきわめて小さなグループで、日本ではセンブリ属3種のみ、全世界でも4属約30種が記載報告されているだけだという。

■日本におけるセンブリの仲間は、センブリ（北海道）、ヤマトセンブリ（本州・九州）、ネグロセンブリ（本州・

四国）の3種のみ知られているが、幼虫には学名の確定されたものが無く、生活史については全く不明であるという。

■「アミメカゲロウ目」は「カゲロウ」と名が付くけれども分類上はカゲロウの仲間（カゲロウ目）と分けられている。アミメカゲロウ目にはウスバカゲロウが入っていて、その幼虫がアリジゴクである。

配慮事項

低水温の泥底に特有の種であり、このような環境が維持される必要がある。水辺の土中で蛹になるため岸辺に土壌の存在が必要である。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
卵期・幼虫期												
成虫期												

参考文献

「日本産水生昆虫検索図説」川合禎次 東海大学出版会 1995

魚
類

底
生
動
物

両
生
類
爬
虫
類

ト
ン
ボ

チ
ョ
ウ

樹
木

（在
来
種）
草
花

（外
来
種）
草
花

哺
乳
類

（水
辺）
鳥
類

（草
原・
ワシ
・タ
カ）
鳥
類
樹
林